

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二・〇七

本4回労働学校千葉開かる

七月二十八日、第四回労働学校千葉労働学校が開催され、経済学者・村越敬二氏による「社会主義・共産主義とスターリン主義について」の講演をうけ学習しました。
受講生の感想文を掲載します。

「社会主義とスターリン主義」で
村越氏が講演

今回のテーマ「社会主義とスターリン主義」については期待して学習にのぞみました。
そのかいがあつてか、おぼろげながら前方が見えてきたように思います。

僕たちは、人間労働者が価値法則に支配され他人のための労働を強制されている非人間的な資本主義社会をくつがえし、真の人間の生き方を実現するための社会主義社会をめざしています。

しかし、一般的に社会主義国といわれているソ連、中国等々の現実の姿を見た時、僕たちが目標とする社会主義社会を実現する情熱が薄れてしまふのは決して僕一人ではないと思います。

今日のソ連、中国を中心とするいわゆるスターリン主義の発生、路線的誤り、そして真の社会主義とは何か、についてが今回の学校で一番聴きたかった点でした。

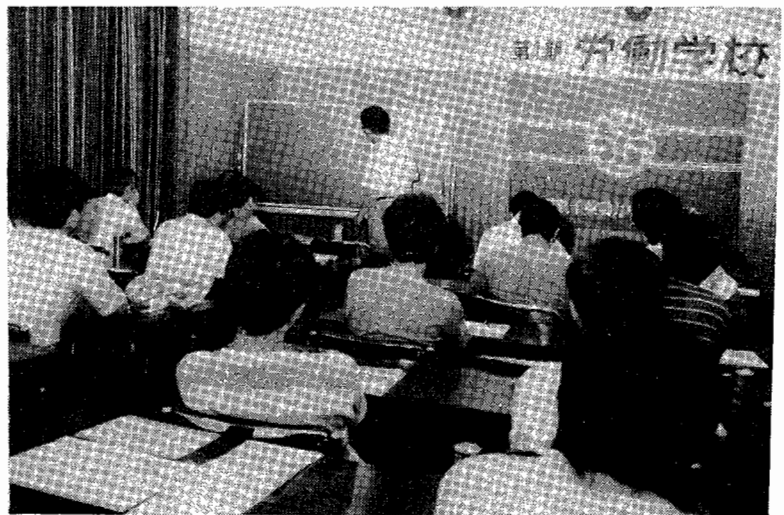
帝国主義支配を支える
「スターリン主義」

まず、現代世界の構造は、帝国主義諸国間の深刻な対立と矛盾の深まりの中で、経済的没落にあえぐ米帝の世界戦争政策によつて、史上三度目の世界戦争の危機に突入しています。

ところがスターリン主義は、「革命をやらない、やらせないから帝国主義もソ連、中国を認めてくれ」との一国社会主義論により帝国主義支配を支え、帝国主義が恐れる世界革命を放棄してしまつています。

つまり、帝国主義との妥協、力の均衡によつて自己を守ろうとの反革命路線です。
それでは、なぜスターリン主義が生まれたのでしょうか。

一九一七年、ロシアでレーニン率いるボルシェビキが革命に勝利し、全世界の労働者人民に限りなくない勇気と激励を与えました。
しかし、ドイツ革命が勝利寸前で敗北し、孤立



満場にじっと聴き入る受講生（7月28日）

を強いられる中でレーニンが死亡、そしてボルシェビキ内における路線的対立が起こり、「ロシア一国で社会主義建設が可能」との一国社会主義論を主張したスターリンの反革命が勝利したのであります。ここにゆがめられた今日のソ連が生み出され、すでに一掃されてよいはずの帝国主義が、何回かの矛盾と危機を爆発させながら今日まで生きのびてきた秘密があるのです。

「スターリン主義」を見すえ、批判しよう

今の時代は資本主義から社会主義への過度期にあります。
マルクスのいうように、人間が商品経済社会に支配される必要はなく、資本家が独占する私有財産を没収し、社会主義社会を実現することは可能であり必然だと思えます。

しかし、ソ連・中国のように社会主義を標榜しながら資本主義より過酷な労働が強制され、特権階級が社会を牛耳るといふ否定すべき現実の中で、僕たちはスターリン主義を真向から見すえ、批判しきる立場をもたなければなりません。
資本主義を打倒して社会主義を確立する以外に一切の矛盾は解決しません。

ソ連、中国ではない、本当に労働者の人間的生き方を実現する社会をつくらねばなりません。そしてそれは、今日の物質的基礎のうえに可能であることを今回の学校で学びました。

勝利競争トジェット塚三里！ 砕粉革行・調臨

社会を実現できる方々を生きる人間的に真

感想文